

関西支所における研究課題の取り組み

関西支所における研究課題の取り組み

1. 森林総合研究所の重点研究推進方向

独立行政法人化後の森林総合研究所は、森林・林業・木材産業にかかわる中核的な研究機関として、科学的知識の集積を図りながら、行政や社会的ニーズに関連した分野横断的・総合的研究を一層推進することとなっています。そのため、第2期中期計画（平成18～22年度）を作り、開発研究と基礎研究の区分のもとに以下のような重点研究課題を推進します。

【開発研究】ア. 森林・林業・木材産業における課題の解決と新たな展開に向けた開発研究

（ア）地球温暖化対策に向けた研究

- a. 森林への温暖化影響予測及び二酸化炭素吸収源の評価・活用技術の開発
- b. 木質バイオマスの変換・利用技術及び地域利用システムの開発

（イ）森林と木材による安全・安心・快適な生活環境の創出に向けた研究

- a. 生物多様性保全技術及び野生生物等による被害対策技術の開発
- b. 水土保全機能の評価及び災害予測・被害軽減技術の開発
- c. 森林の保健・レクリエーション機能等の活用技術の開発
- d. 安全で快適な住環境の創出に向けた木質資源利用技術の開発

（ウ）社会情勢変化に対応した新たな林業・木材利用に関する研究

- a. 林業の活力向上に向けた新たな生産技術の開発
- b. 消費動向に対応したスギ材等林産物の高度利用技術の開発

【基礎研究】イ. 森林生物の機能と森林生態系の動態の解明に向けた基礎研究

（ア）新素材開発に向けた森林生物資源の機能解明

- a. 森林生物の生命現象の解明
- b. 木質系資源の機能及び特性の解明

（イ）森林生態系の構造と機能の解明

- a. 森林生態系における物質動態の解明
- b. 森林生態系における生物群集の動態の解明

2. 関西支所の担当する研究課題

関西支所がとくに重点的に推進している分野が、アイc2「里山の保全・利活用及び森林環境教育システムの開発」です。

研究課題群：里山の保全・利活用及び森林環境教育システムの開発

- ・教育的活用に向けた里山モデル林整備
- ・流域圏における水循環・農林水産生態系の自然共生型管理技術の開発
- ・人と自然のふれあい機能向上を目的とした里山の保全・利活用技術の開発
- ・日本列島における人間 - 自然相互関係の歴史的・文化的検討

ほかに、関西支所が比較的大きな部分を担当する研究としては以下のようなものがあります。

- ・温暖化が森林生態系に及ぼす影響を予測・評価する技術の開発
- ・緊急に対応を必要とする広域森林病虫害の軽減技術の開発
- ・獣害発生機構の解明及び被害回避技術の開発
- ・木材利用部門と連携した活力ある林業の成立条件の解明

このほかにも、さまざまな研究テーマのなかで研究を分担し、また基礎・基盤的研究にも取り組んでいます。